

新聞の切り抜き記事から



研究員 鶴岡 美宏

当センターの新聞切り抜きファイルから主な記事を抜粋して紹介します。

□第20分冊 (2014年3月17日～6月2日)

オープンデータ生かせ 自治体情報公開相次ぐ

行政が持つ公共データをインターネットで広く公開する「オープンデータ」に取り組む自治体が増えている。自治体が公開した膨大な情報を基に、災害時の避難所の位置や妊娠・出産時に必要な手続きといった、住民の生活に身近な情報を提供するサービスも誕生しつつある。(日経3/17)

川井前市長が異例の出馬表明 松戸市長選

松戸市長を4期務めた川井敏久氏(71)が17日、市役所で会見を開き、任期満了に伴う同市長選(6月15日投開票)に5選を目指し無所属で立候補することを表明した。都市部の市長4期経験者が返り咲きを狙うのは極めて異例。(千葉日報3/18)

いじめ防止条例可決 全国2例目 今夏までに基本方針

千葉県議会は19日、いじめ防止に向けた県の責務と役割をまとめた議員提出の「県いじめ防止対策推進条例案」を賛成多数で可決した。4月1日に施行されるが、都道府県による条例としては山形県に続き2例目。(毎日3/20)

当初予算案を再議決 説明不足理由に印西市議会

印西市の板倉正直市長が2014年度一般会計当初予算の修正議決の審議をやり直す「再議」の手続きをしたことを受け、同市議会は20日、採決を行った結果、賛成18、反対4で修正議決を再議決した。(千葉日報3/21)

木更津市長に渡辺氏 初当選

任期満了に伴う木更津市長選は23日投開票され、

新人で前県議の渡辺芳邦氏(49)が新人の石川哲久氏を破り、初当選を果たした。(毎日3/24)

何のための道州制か 地方自治の空洞化 イメージの共有を

☆片山善博 慶応大学教授

道州制基本法案が話題になっているせいか、「道州制に賛成か反対か」などと尋ねられることが多くなった。正直なところ、この種の質問には当惑する。そもそも道州制の定義や共通したイメージが確立しているわけではないからである。(毎日3/29)

医療過疎解消へ期待 東金に東千葉MC開院

地方独立行政法人東金九十九里地域医療センターは2日、東金市丘山台3の救急基幹病院、東千葉メディカルセンター(MC)の開院式を開き、森田健作知事をはじめ開設団体の東金市と九十九里町や近隣市町村の関係者ら約130人が開院を祝った。(千葉日報4/3)

特区決定、成田の将来像は？

千葉県成田市はこのほど、経済成長を目指し地域限定で規制改革を進める国の「国家戦略特区」に指定された。医学部新設を核に国際的な医療拠点を目指すほか、関税手続きを簡略化する地域の設定などを求めている。今後、どんなまちづくりを目指すのか。成田市の小泉一成市長に聞いた。

(日経4/4)

「日本一古い町」の節目 酒々井町が125周年の催し

酒々井町は4月3日、町制施行125周年の記念イベントを開いた。国が1889年に町村制を施行して以来、一度も合併しないまま町制を継続しているのは同町と群馬県長野原町のみ。(毎日4/5)

交論 増える乾杯条例 その背景、意義は

「まず地元のお酒で乾杯を」。こんな乾杯条例が各地の議会で制定されている。なぜ条例が必要なのか。その背景と意義について日本酒造組合中央会会長の篠原成行氏と法政大学教授の広瀬克哉氏にそれぞれ聞いた。(千葉日報4/9)

千葉市「待機児童ゼロ」職員が施設斡旋

千葉市は4月10日、保育所の待機児童が4月1日現在でゼロになったと発表した。同市は2010年2月に「待機児童解消に向けたアクションプラン」を策定。4年間で1553人分の受け入れ枠を増やした。(読売4/11)

南房総市長選 石井氏が無投票3選

任期満了に伴う南房総市長選は4月13日告示され、現職の石井裕氏(48)以外に立候補の届け出がなく、無投票で3選が決まった。(千葉日報4/15)

任期満了に伴う2市長選投票開票 東金市 山武市

東金市長選は、現職の志賀直温氏(65)が元衆院議員秘書の結城武光氏と行政書士の鹿間陸郎氏の新人2人を破り、5回目の当選を果たした。

山武市長選は、現職の椎名千収氏(68)が新人で元市議の小川一馬氏を破り3選を果たした。(毎日4/21)

香取市長、宇井氏3選 病院建て替え具体化へ

任期満了に伴う香取市長選は4月27日投票開票され、無所属で現職の宇井成一氏(55)が旧佐原市助役の石引庄一氏を破り3選を果たした。

(千葉日報4/28)

耕論 消えゆく自治体 オピニオン

急激に人口が減ることで、2040年までに全国で半数の自治体が「消滅可能性都市」になるという。自治体の未来をどう描けばいいのか。その危機に直面している被災地から考えた。

- 佐藤健児さん 元宮城県北上町長
- 今井照さん 福島大学教授
- 伊東正和さん 神戸市長田区大正筋商店街振

興組合理事長

(朝日5/22)

「自治体消滅」を防げ 県が対策チーム

「2040年に千葉県内6市町で子供を産む世代の女性が5割以上減る」。民間の有識者団体「日本創生会議」が今月8日に公表した試算は、行政関係者にショッキングな内容となった。県は人口減少問題を研究する「人口減少少子化対策推進チーム」を発足させ、本格的な対策に乗り出す。

(毎日5/23)

定数削減 先送り濃厚

来春の千葉県議選に向け、定数や区割りの見直しを巡る県議会各会派の動きが活発化してきた。23日には、民主が現行46選挙区を20に再編し、定数を95から16削減して79にする独自案を発表、自民も党内で4案をまとめた。6月定例会で議論されるが、定数削減は単独過半数を握る自民が消極的なため先送りが濃厚。(読売5/24)

□第21分冊 (2014年6月3日～8月18日)

市原市議会賛成多数で 定数4減「32」を可決

市原市議会の定例市議会は13日、議員定数を現行の36から4減の32とする条例改正の議員発議案を賛成多数で可決した。新定数は来年の次回市議選から適用される。(千葉日報6/16)

松戸市長に本郷谷氏 接戦の末、再選果たす

松戸市長選挙は15日、投票開票され、無所属で現職の本郷谷健次氏(65)が、前市議の杉浦誠一氏、前市長の川井敏久氏、前市議の伊藤余一郎氏を破り、再選を果たした。(朝日6/16)

議会改革度、流山が首位

全国の市区議会について日本経済新聞社産業地域研究所がまとめた「議会改革度」調査で、千葉県内1位は流山市だった。全国順位は5位と前回の1位からは下がったが、県内では他市を引き離し首位を維持した。インターネットでの情報公開

や活発な議論をするための仕組みなどが高評価につながった。(日経6/17)

県議会一般質問 答弁要旨

民主党の高橋浩議員は、東京湾アクアラインの高速バス路線の運行状況を質問した。諸橋副知事は、路線数と便数が11年度の19路線約830便(平日1日当たり)から13年度は23路線910便に伸びたと報告。(千葉日報6/20)

県議会一般質問 答弁要旨

民主党の矢崎堅太郎議員は2004年2月に策定された千葉県人権施策基本指針の改定について尋ねた。中岡健康福祉部長は、社会変化に応じた指針となるよう、検討会議や県民の意見を踏まえ本年度末までに改定を行う方針を明らかにした。

(千葉日報6/21)

県議会一般質問 答弁要旨

市民ネット・社民・無所属の入江晶子議員は、福島第一原発事故による子どもの低線量被ばくの被害を防ぐため、定期的な健康調査を行うよう求めた。古元保健医療担当部長は「専門的見地から検討するよう国に要望する」として、調査を行わない考えをあらためて示した。(千葉日報6/24)

千葉市会定数4減可決

千葉市議会6月定例会は25日、議員定数を54から4減して50とする条例改正案を賛成多数で可決した。次の市議選から適用され、中央、花見川、稲毛、若葉の4区で各1人削減し緑区と美浜区は現状維持となる。(読売6/26)

鎌ヶ谷市長 清水氏4選

任期満了に伴う鎌ヶ谷市長選は6日投開票され、現職の清水聖士氏(53)が新人で前市議の岩波初美氏を破り4選を果たした。(毎日7/8)

地方議員の質 選挙制度含め向上策を

地方議員の不祥事が目立っている。地方議員の質向上には議会の情報公開や政策活動の強化に加え、選挙を通じて競争原理を働かせることが欠か

せない。選挙制度の見直しも含めてあり方を議論すべきだ。(毎日社説7/20)

地方選 投票率が急落

地方選の投票率が急落していることが朝日新聞のまとめでわかった。昨年8月以降の市区長選の平均投票率は約39%で、前回より12%落ち込んだ。専門家は、高齢者層の選挙離れが進むとともに、地方政治への期待感が薄まっていると分析する。(朝日7/28)

不交付団体、2増5市

普通交付税を受け取らなくても財政を運営できる千葉県内の自治体が、2014年度は5団体となり、前年度より2増えた。景気の回復に伴う税収増で、市川、君津両市が不交付団体になった。団体数の増加は7年ぶり。自治体の財政にも薄日が差してきたのか。(朝日8/3)

耕論 地方議会はいらない? オピニオン

セクハラヤジに号泣。不透明な政務活動費。買収事件…。

地方議会なんてもういらぬ。そんな声が出つつある中、私たちに最も身近な民主主義が機能する道を考えて。

- ・砂原庸介さん(大阪大学准教授)
- ・小黒敬三さん(福島県浪江町議会議長)
- ・松野 豊さん(千葉県流山市議)(朝日8/5)

<以下次号へ>